

令和2年度第2回地域包括ケア事例研究会

～多様化する移動手段とこれからの移動・外出支援サービス～

日程: 令和3年3月11日(木) 13時30分～17時00分

会場: さいたま新都心合同庁舎1号館 多目的室

参加人数: 67名

アンケート回収率: 40%



～アンケート結果～

1. 本日の事例研究会は参考になりましたか

①大変参考になった	②参考になった	③普通	④あまり参考にならなかった	⑤参考にならなかった	⑥回答なし	合計
4	19	4	0	0	0	27

※自由記述 27本

- 他の地域での取り組みや工夫していることから自身の地域で利用できそうなヒントを得ることができた。
- 普段の研修では話の出来ない他県の行政担当者と情報交換ができる機会を得られ、継続してこのような情報交換会があればと思います。
- 移動支援に関する事例や新しく発売された自動車保険、法改正された内容などを知ることができ、今後の活動に役立てたいと思いました。

2. 事例研究会の成果として、貴自治体において実現可能な取組が見つかりましたか

①直ちに出来そうな取組があった	②検討したい取組があった	③普通	④あまり参考にならなかった	⑤回答なし	合計
0	21	2	4	0	27

※自由記述 26本

- 私たちも社会福祉法人。社協の車両貸し出し事業をさらにPRし、買い物ツアーなどできないか検討したいと思いました。
- 地域住民主体でボランティアの車両を使用し、自動車保険は自分たちのものを利用。送迎前後の保険についてはボランティア活動保険に加入し、補償に備える。事務手続きや利用者と運転ボランティアのマッチングする事務員を配置。社会福祉法人から車両と運転手の協力を得て、買い物支援を行う。保険と燃料費は地域の活動団体が負担。
- 秦野市の取組の中に、介護保険被保険者証と一緒に認知症サポーター養成講座、ドライバー養成研修の通知と一緒に送る方法を取っていると記載がありました。大きな市町村での周知方法としてとても参考になります。

3. 意見交換の内容は、今後、貴職の業務に活用できる内容でしたか

①十分活用できる	②活用できる	③普通	④あまり活用できない	⑤活用できない	⑥回答なし	合計
1	17	9	0	0	0	27

※自由記述 26本

- なかなか市庁内連携がとれず体制基盤が弱い状況ではありますが、重層的支援体制整備事業が始まれば総合的にも推進していけるものと思います。
- 住民が主体的に移動支援について考えるためにはどうすればよいか等、同じ悩みを抱える方々と相談できよかったです。10年後の生活を想像し、協力しながら地域づくりが進められるよう考えたいです。
- 講師からのアドバイスで、停滞していたサービス運用に向けて動き出すヒントをいただきました。

4. 本日の事例研究会のプログラムや運営等についてご感想をお書きください。(自由記述)

※自由記述 24本

○Zoomでしたがグループワークを含めてスムーズに取り組むことができました。県内の関係者(生活支援コーディネーターを含む)とも共有する時間とすることが次に活かされる機会をいただいたと思います。

○移動支援サービスについてこれから立ち上げようとしているところなので、法の改正、4つのパターンでの移動支援事例や運送について登録する・登録を要しない様態など紹介されており、分かりやすかった。県による立ち上げ支援事例や民間デジタル等を活用した移動支援も聞いたことがない話だったので、必要な情報について知ることが出来良かった。

○年度末の時期ですが、WEBでの研修を実施していただき、参加しやすくまた貴重な情報をいただくことができました。ありがとうございました。

5. 今後、事例研究会等にて取り扱って欲しいテーマがあれば記載してください(自由記述)

※自由記述 13本

○高齢者の交通弱者の移動支援「福祉Mover」の取り組みに興味があります。実証している地域の方々のお話しが聞きたいと思いました。

○神奈川県秦野市のように総合事業の通所型サービス、訪問型サービスについて全てのサービス(A型～D型)を実施している自治体があると思います。そうした先進的な自治体の取り組みについて学べたらありがたいです。

○通所型・訪問型サービスBへの取り組み事例